



## Bridge School in 信州

2014.3.22(Sat) – 3.24(Mon)

報告書

企画・運営

Bridge School in 信州 実行委員会

## 1. 実行委員長挨拶

平素より皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。このたび多くの方々のご支援、ご協力を頂き、長野県飯田市を舞台にした「Bridge School」を、2014年3月22日から3月24日にかけて開催いたしましたことをご報告申し上げます。実行委員並びに参加者を代表いたしまして、厚く御礼申し上げます。

開催に関わった大学生は、その多くが大学受験に際して進路選択に悩み苦しんだ経験を持っています。現在はそれぞれの選んだ場所で充実した日々を過ごしていますが、必ずしもすべての大学生が自分の選んだ道に納得し、毎日を送ることができているわけではありません。特に進路についての活きた情報を得にくい地方の高校生にとっては、そうしたミスマッチが生じるリスクはより高いと言えるでしょう。

そのような悲しいミスマッチを可能な限り無くしたいという思いを胸に始まったのが Bridge School です。

企画内容を考案する中で、この目的を果たすためには、単に進路情報を提供するという手段だけでは不十分だという気づきがありました。それぞれが自分にとってベストな選択をするためには、進路についての情報だけでなく、自分自身の興味関心についても、深く考え、理解する必要があります。また、大学とは社会に出て生きていくための武器となる力を身につける場でもあり、進学について考えるにあたって「社会」や「仕事」という要素を切り離すこともできません。

こうして、Bridge School は単に大学・学部の紹介にとどまらず、高校生が自分の本質的な興味がどこにあるのかを確かめ、その興味を追求するためにはどんな道を進めばいいのか、ということについて考え始めるきっかけとしての企画へと成長してきました。

多種多様なプログラムは、高校生・大学生問わず、参加者に日常では味わえない深い学びと絆をもたらしてくれました。本報告書でその様子を垣間見ていただければ幸いです。

また、今年度の実施にあたっては運営に際して多くの課題もありました。これらの課題を放置することなく、実行委員一同さらなる工夫を重ね、より良い企画へと Bridge School を成長させていきたいと考えています。

個人的な感想になりますが、後輩である高校生たちがこうした企画に前向きに参加し、取り組んでくれたことに大きな喜びを感じます。地理的にも他地域の高校生との交流などが難しく、内向的になりがちな飯田市において、多様な出身・世代の人が集うこの企画に飛び込むことは、相応の勇気を要したと思います。現状の自分に満足せず、さらなる変化を追い求めるという彼らの勇気ある姿勢が、地域に新たな風を吹かせることに期待を抱いてやみません。

最後になりますが、この小さな企画が無事に開催を迎えることができたのは、ひとえに、長野県を愛し本企画に様々なご支援を下された皆様のおかげです。この貴重な場を、来年も再来年も守り続けていくことができるように、今後とも変わらぬご支援とご協力をどうかよろしくお願いいたします。

Bridge School in 信州 2014年度実行委員長  
関口 真司

## 2. スケジュール

日程 時間	3月22日 企画	3月23日 企画	3月24日 企画
7:00		起床	起床
7:30		朝食	朝食
8:00			
8:30		セミナーB① (9:00～10:30)	セミナーB② (9:00～10:30)
9:00			
9:30			
10:00			
10:30		セミナーA② (11:00～12:30)	レクリエーション
11:00			
11:30			
12:00		集合 移動	昼食(12:30～13:30)
12:30			
13:00	開会式	座談会	閉会式
13:30			
14:00			
14:30	講演会(牧野市長) 15:00～16:30		解散
15:00			
15:30	施設案内	講演会(日渡氏) 17:30～19:00	
16:00			
16:30	セミナーA① (17:30～19:00)	夕食(含 片付け)	
17:00			
17:30	座談会	座談会	
18:00			
18:30			
19:00			
19:30			
20:00			
20:30	就寝	就寝	
21:00			
21:30			
22:00			
22:30			
23:00			

### 3.プログラム詳細

#### アイスブレーキング

##### 概要：

開会式での顔合わせを済ませた後、参加者同士、また、参加者と大学生の間の交流を深めるアイスブレーキングタイムを設けました。教育実習を経験した大学生が考案したゲームや、協力して同じ課題に取り組むことなどを通じて、2泊3日間をともにする仲間との絆を深めました。



#### 少人数セミナー

##### 概要：

少人数セミナーは、本企画の根幹をなすプログラムです。大学生が自分の専攻分野についてのセミナーを設計し、大学での主体的な「学び」を疑似体験してもらうことを目的としています。参加者は2つのセミナーを選択し、それぞれ1コマ90分×2回の授業を受講しました。以下には、セミナー講師による授業の振り返りと今後に向けた反省点を記載します。

##### 教育学・教員養成：教えることと学ばせること

東京学芸大学教育学部4年 遠山裕一郎

信州大学教育学部3年 那須絢太郎

このセミナーは、高校生が普段受けている教育について、教育を「行う」側の視点から考える機会を提供することと、他人に物事を伝えるということの難しさを感じてもらうことが目的でした。

具体的には、まず教員養成を目的とする教育学部のカリキュラムの説明、教育の目的とは何であるのかについての議論、そして最後に事前課題として各自が考えてきた授業を模擬授業として行い、それについてフィードバックをしました。

教育の目的についての話し合いでは、学習指導要領の「生きる力」という考えを紹介しつつ、今受けている教育は何を目的として行っているのだろうかということについての各自の考えを深めてもらいました。模擬授業では、高校生たちは今まで受け手としてのみ捉えていた教育を違った視点から見るとともに、物事を一から伝えることの難しさを感じてくれたようです。

##### 政治学：憲法とは何かー改憲を考えるための基礎知識ー

慶應義塾大学法学部4年 楢原航平

私が専攻する政治思想史というのは、あまり実践的な学問ではありません。しかしながら、すぐには役に立たない知識が、現代の政治・社会状況を深く理解する「補助線」となることは意外に多いものです。今回のセミナーでは、私がそうした思想史的な知識を提供しながら、高校生・大学生の皆さんと「改憲」という極めて現代的なテーマについてのディスカッションを試みました。

「テーマ設定が難しすぎるのではないかと自問自答することもありましたが、実際に高校生の皆さんのリアクションを見ると、それが杞憂であったことに気づきました。最終的には、例えば国会答弁の映像を見て、様々な価値観とのバランスを考えながら、彼ら・彼女らが自分なりの考察を加えられるレベルまで辿りつけたように思います。

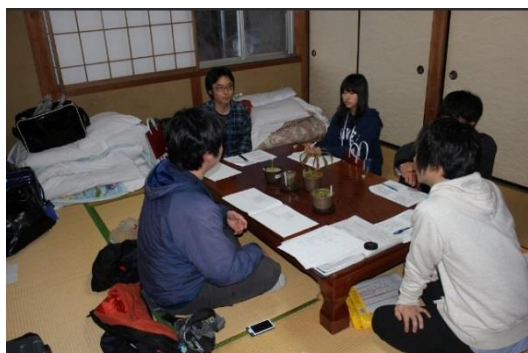
「講師」の私にとっても忘れられない経験となるような、貴重な時間でした。



**数学・論理学：日常と数学と —アタリマエを定義する—****慶應義塾大学理工学部 4年 佐伯憲太郎**

1 日目は、数学の目的と構造について話しました。主に、論理の大切さと公理系の概念についてです。高校生には慣れない抽象的な概念だったこともあり戸惑う様子も見られましたが、実際の証明問題を解くなどの具体的な作業には関心を持ってくれました。

2 日目にはより体感的に「論理的な厳密さ」に触れてもらえるよう、高校生に参加してもらいながらいくつかの論理パズルを出題しました。「うつつきと正直者」のような論理パズルには非常に反応が良く、楽しみながら論理に触れてもらえました。終盤には改めてセミナーのテーマとしていた「連続性」を、大学教授の解説ビデオなどを交えて紹介しました。内容は難しいものでしたが、高校生から具体的な質問が出たりと、大学で扱うような数学にも関心を持ってもらえたようです。

**科学・農学：科学リテラシーとは何か—情報社会に生きる私たち—****京都大学農学部 4年 野村康之**

本セミナーは、科学リテラシーや科学哲学に関する考え方と、情報を取捨選択して生きていくことに対する重要性を自覚してもらうことを目的として行いました。例としては、自身が専門にしている植物における実例などを取り上げ、抽象的な話ばかりにならないよう努めました。受講者には満足感を持ってもらえたと感じています。

高校生は話題を振ったときの反応が良く、考えてくれたり、発言をしてくれたりしました。新たな考え方に対する拒否反応はなく、彼らの中で納得したような表情を浮かべる場面もありました。

ただ、高校生に話を振らずに話し続けてしまった場面もあり、時折高校生が話についていけない瞬間も見受けられました。また、高校生から話題をくみ上げる工夫も欠けていたため、他のセミナーに比べると高校生が話す機会は少なめであったかと感じています。今後もこういったセミナーを行う際には、セミナー担当者から話題提供をするばかりでなく、高校生から話題を引き出すように努めたいと考えています。

しかし、総合的には高校生たちに、一般的に論じられているような「科学的」な根拠に基づく発言に対し、鵜呑みにすることなく向き合う姿勢を持ってもらう機会を提供できたと感じています。

## 各種講演など

### 飯田市長・牧野光朗氏講演

#### ○講演内容

平成16年より飯田市長を務め、南信州広域連合や全国市長会などでも広く活躍されている牧野光朗様から、飯田市の地域づくりについての講演を行っていただきました。

講演の始めにはご自身の来歴をお話くださり、地域外に進学・就職してから飯田市に戻るに至った経緯を詳しく語っていただきました。飯田高校生だけでなく、飯田市出身の大学生スタッフも、これからの地元との関わりをどう考えていくか、捉え直すきっかけになったと思います。

また、飯田市の取り組みのお話にあたっては、飯田市が歩んできた歴史を50年以上さかのぼり、産業の構造や地域・人のつながりなど、飯田市の特徴・強みをお話しいただきました。そして、そうした飯田市の特徴と、これから日本の、特に地域社会が直面する課題が提示され、それらを踏まえて飯田市が目指す地域像と具体的な取り組みをご紹介いただきました。

自分の住んでいる地域をこのように分析的な視点で見るとは少ないため、高校生にとっては、自分たちが暮らす飯田市の今まで知らなかった側面に気づく機会となったようです。

また、ひとつひとつの取り組みが単なる思いつきではなく、歴史的・計量的な根拠をもって行われていること、さらに長期的なビジョンのもとでそうした取り組みがなされていることがわかり、大学生にとっても非常に勉強になる時間でした。

講演の最後に設けられた質疑応答の時間の他にも、牧野様から質問を投げかける場面も多くあり、参加者からも盛んに発言がなされました。

### 「本の読み方」セミナー

大学に入ると学習のために本を読む機会が格段に増えます。しかし、読書を苦手とする学生は多く、学業に苦戦する姿がよく見受けられます。そこで、以下に紹介する「aura」の協力のもと、読書を楽しむためのワークショップと講義を行いました。

#### ○協力団体プロフィール

##### aura Book Community :

大学生、社会人を対象に読書会を主催している団体。政治・経済・思想・美術・ITなど様々な分野の古典を読んでいます。代表は慶應義塾大学OBの日渡健介氏。

#### ○セミナー内容

本を読むにあたり、非常に重要な部分を占めているのは、「読む本を選ぶ」作業です。自分の関心がどこにあるのかを考えた上で、どうやって本を選べば良いのか。その作業のコツを、ワークショップを通じて掴んで行きました。

ワークショップの内容は班に分かれて20冊程度の本を、「出版社別」「形態別」に分け、そこからつかめる各社の得意分野や、各形態の本の難易度などの傾向を把握します。

セミナーを終えてみて、高校生からは「書店に行って本を選んでみるのが楽しみのようになった」「本を選ぶときの今までになかった基準を得られた」といった感想がありました。





## Bridge School in 信州 実施要項

名称	Bridge School in 信州
主催	Bridge School in 信州 実行委員会
代表者	関口真司 慶應義塾大学3年
協賛企業	株式会社地元カンパニー様
後援	長野県飯田市 長野県教育委員会
日時	2014年3月22日～3月24日
会場	天龍峡温泉交流館
参加者	高校生6名(うち長野県出身者6名) 大学生12名(うち長野県出身者6名) 社会人1名 計 19名

## 企業・団体協賛・ご芳名※敬称略・順不同

信州若者1000人会議 飯田市商工会議所 飯田高等学校同窓会  
飯田下伊那薬剤師会・会営薬局 飯田下伊那薬剤師会

## 個人協賛・ご芳名※敬称略・順不同

金沢 佳昭(飯田市) 林 善次(飯田市) ほか、匿名でのご支援複数

## 〈大学生実行委員〉

氏名	大学	出身高校
関口真司	慶應義塾大学法学部3年	長野県飯田高校
速渡開也	信州大学教育学部3年	長野県飯田高校
金浜充志	信州大学教育学部3年	青森県立八戸高校
橋枝紗知子	東京学芸大学教育学部3年	長野県飯田高校
大倉公貴	信州大学理学部3年	長野県飯田高校
和田耕介	関西大学環境都市工学部2年	長野県飯田高校
楢原航平	慶應義塾大学法学部4年	鳥取県立鳥取西高校
佐伯憲太郎	慶應義塾大学理工学部4年	攻玉社高等学校
野村康之	京都大学農学部4年	鳥取県立鳥取西高校
遠山裕一郎	東京学芸大学教育学部4年	長野県飯田高校
那須絢太郎	信州大学教育学部3年	三重県立四日市高校
篠崎勇太	プリンストン大学卒業	